

## 応用物理学専攻

### 人材養成および教育研究上の目的

---

応用物理学専攻においては、理学研究科の理念のもとに、自然界の諸現象を支配する普遍的法則の探究を通して物理学の概念や物質観を身に付け、自立して研究活動を行い得る高度な研究能力を持つ人材の育成を行う。また、この学術的素養を活かして、社会の諸方面において活躍できる創意ある専門職業人を養成することを目的とする。博士課程前期では、応用物理学に関する学識と応用力を養い、研究能力を開花・発展させる教育を行う。博士課程後期では、前期課程の教育をさらに深化・発展させ、自立して研究活動を遂行し得る高度な研究能力を備えた人材の育成を図る。

### 三つのポリシー

---

#### ❖ アドミッション・ポリシー（入学者受入れの方針）

応用物理学専攻では、物理学の概念や物質観を身に付け、自立して研究活動を行い得る高度な能力を持つ人材、及びこれらの学術的素養を活かして、社会の諸方面において活躍できる創意ある専門的職業人を育成することを目的とする。

博士課程前期では、一定水準以上の学力があって且つ物理現象やその応用に興味があり、問題解決に向けて積極的に取り組む人材を受け入れる。この方針に沿って入学試験を行い、特に成績優秀な学部学生には3年次からの飛び級で受験資格を与えている。また、推薦入学制度でも受け入れている。本専攻の基盤となっている本学理学部物理科学科以外の他学科・他学部・他大学の学生や社会人・外国人留学生も受け入れる。

博士課程後期では、一定水準以上の研究遂行能力と強い研究意欲のある学生を受け入れる。修士論文の内容と面接審査等によってそれら进行评估している。また、社会人・外国人留学生も受け入れる。

#### ❖ カリキュラム・ポリシー（教育課程編成・実施の方針）

博士課程前期では、応用物理学に関する学識と応用力を養い、研究能力を開花・発展させる教育を行う。専修分野の専門的知識や自然科学の研究手法を各専修の主要科目によって、多面的かつ先端的な知識を、他の専門分野を含む多くの特修科目によって修得する。この方針に沿って、主要科目の「講究」では少人数教育での授業・輪読・論文抄読等により専門的知識を、同じく「実験」や「演習」では実験手法や解析手法を修得でき、他専攻の特修科目も受講できるようにしている。

博士課程後期では、前期課程の教育・研究をさらに深化・発展させ、自立して研究活





動を遂行し得る高度な能力を備えた人材、及び社会が求める高度な研究開発能力を有する人材の育成を図る。そのため、指導教員のもとでの学生の自主的な研究推進とゼミナールを重視し、加えて特修科目では応用物理学に関する深い学識を身につけることができるようにしている。

#### ❖ ディプロマ・ポリシー（学位授与の方針）

博士課程前期では、広い視野に立って深い学識を修め、物理学に関する専門的な研究能力、又は専門的な業務に従事するために必要な能力を有することを学位授与の判断基準とする。修了に必要な専修科目及び特修科目の単位取得と修士論文の審査に合格することを修了要件とする。

博士課程後期では、研究成果が新たな知見を含み、研究者として自立して研究活動を行う高度な研究能力、又は高度に専門的な業務に従事するために必要な能力を有することを学位授与の判断基準とする。博士（理学）の学位授与には、修了に必要な研究指導科目及び特修科目の単位取得と博士論文の審査に合格することを修了要件とする。博士論文の審査にあたっては、査読付き学術誌に論文が掲載されていることを基本要件とし、博士論文の提出及び公聴会における論文審査を通して判断する。

